



2021 年度第 3 回理事会

議 事 錄



一般社団法人 日本クレー射撃協会

2021 年度 第 3 回理事会

議 事 錄

1. 日 時 2021 年 10 月 27 日 (水) 午後 1 時 00 分～

2. 場 所 神奈川県立伊勢原射撃場 大会議室

3. 出席者 出席理事 16 名、出席監事 2 名

会長 (議長)	高橋 義博	(神奈川)	* 強化委員長
副会長	不老 安正	(福岡)	
副会長	三浦 正義	(秋田)	
副会長	丸石 博	(島根)	
専務理事	柏木 孝則	(三重)	* 審査委員長
常務理事	渡辺 久雄	(栃木)	* 競技委員長
常務理事	菊本 哲也	(東京)	* 総務委員長
理事	坂井 則寿	(北海道)	WEB
理事	栗原 貞夫	(埼玉)	WEB
理事	瀧根 隆幸	(富山)	
理事	森 秀樹	(滋賀)	WEB
理事	三谷 千津男	(熊本)	WEB
理事	本戸 歳知	(埼玉)	
理事	夏樹 陽子	(本部)	
理事	安田 岸雄	(愛媛)	WEB
理事	岩尾 美和子	(和歌山)	

監事	江野澤 吉克	(千葉)	
監事	藤沼 弘文	(岩手)	WEB

(欠席理事) 井出益弘、佐々木洋平、寺西寛

(欠席監事) 相馬 正

4. 陪 席 清水 光一 (東京五輪組織委員会)

大江 直之 (事務局長)

永島 宏泰 (JOC・アシスタントコーチ)

坂本 強 (本部事務局)

5. 理事会定足数確認

本理事会の定足数について、理事総数 19 名中 16 名の出席となり、定款第 43 条の規定により過半数以上の理事が出席しているため成立したことを事務局長より報告。なお、監事については江野澤監事、藤沼監事が出席。

6. 議長挨拶及び議事録署名人確認

事務局長より、定款第 42 条に基づき高橋義博会長が本理事会の議長を務める旨説明し、高橋議長より、本理事会の議事の経過を議事録とし議事録署名人について、定款第 47 条に基づき、議長と出席監事 2 名となる旨説明。

また、審議に先立ち、高橋議長より出席理事各位に対し、挨拶と議事進行に際しての協力依頼があった。

7. 3R 宣言唱和

瀧根隆幸理事より、3R 宣言 8 項目を唱和。

8. 感謝状・記念品贈呈

理事会の場を利用し、2020 東京五輪クレー射撃競技の開催にあたり、貢献いただいた組織委員会関係者 4 名へ感謝状と記念品を贈呈。

- (1) 清水 光一：組織委員会 サブマネージャー
- (2) 中園 久恵：組織委員会 射撃担当
- (3) 古谷 隆太郎：組織委員会 射撃担当
- (4) 迫 俊介：株銀座銃砲店

続いて、当協会が進める環境対策（クレー残渣を道路舗装の路盤材と再利用）へ協力いただいた前田道路株式会社へ感謝状と記念品を贈呈。

- (1) 西関東支店西東京合材工場 品質管理課
真壁 匡史

9. 報告事項

(1) WMG 関西 2021 について

事務局長より配布資料に添って説明。

日本組織委員会が大会の延期を決定、11 月 IMGA 総会へ上程し承認を得る予定。組織委員会は 2026 年 5 月の開催を希望している。

(2) FITASC 総会について、

事務局長より配布資料に添って説明。

去る 10 月 1 日、WEB による総会が実施され、本部事務局大江・唐澤が出席。FITASC もコロナの影響を色濃く受け、2020 年は赤字決算となった。前年度 19 回実施した世界大会が 9 回に減ったことが主な要因。

また、年会費の値上がり承認（15 ユーロ値上）された他、アルゼンチン NF の退会処分等承認。

ヨーロッパでは鉛問題が再燃し、FITASC は ISSF と協力して鉛問題に関する報告書を EU 環境委員会へ提出した。日本への影響が懸念される。

会長より 2021 年度会員数について説明。

コロナの影響を受けながらも 90 名近い新入会員を得ることができた。本部事務局を中心に会員数を増やしていく計画を作成するよう指示している。

(3) 本部公式大会（伊勢原）について

(4) ブロック本部公式大会④（二本松）について

事務局長より配布資料に添って説明。

本部公式大会（伊勢原）については、当初、7月3~4日の予定であったが豪雨による行政の避難指示が出たために延期。8月21~22日、代替大会を実施した。トラップ101名、スキート25名の参加となり、トラップは金井典美選手（山梨）、スキートは折原梨花選手（栃木）が優勝した。

ブロック本部公式大会④（二本松）については9月11~12日開催、トラップ71名、スキート42名が参加。トラップは大前有希選手（兵庫）、スキートは佐藤堅司選手（北海道）が優勝した。

事務局坂本より補足説明。

現在収支は集計中だが、ブロック本部④（二本松）は20万円ほどプラスになると見込んでおり、昨年度に比べてスキート参加者が増えたことが改善要因である。運営面ではレフェリー辞退者や手作業によるスコアボード等苦労があった。現場競技役員方々の熱心なご協力に感謝申し上げたい。

渡辺競技委員長より補足説明。

本部公式大会（伊勢原）は実施日程が変更となったことで、地方公式大会と会期が重なり、レフェリー等のスタッフを揃えることに苦労した。北信越ブロックの瀧根理事にレフェリー派遣の協力をいただいた。改めて感謝申し上げたい。

（5）強化委員会報告

事務局長より配布資料に添って説明。

強化委員会では、2020東京五輪の総括と2024パリ五輪に向けた強化計画を議題として、1泊2日計6回の強化委員会を実施、うち2回が終了した。

<1回目>

ドイツにナショナルトレーニングセンター（NTC）が完成、パリ五輪に向けてドイツNTCを拠点にした強化活動を今後実施したい。

パリ五輪まで、1年目・2年目・3年目の基本方針を決め、強化スタッフの役割分担を明確化した。今後、ファイナルに進出できる選手の育成を目標にフローチャートを順次作成予定である。

<2回目>

東京五輪の終了をもって強化指定選手と強化育成選手をクリアにして、選手の選出方法について話し合い、120点の基準点を決めた。基準点をクリアしているスキート種目の戸口選手を強化指定選手第1号として認定した。

その他、東京五輪へ出場した4選手に対してWEB面談を行い、次回のパリ五輪を目指す気持ちがあるかを確認。明確に意思表示をしたのがスキート種目の井川選手と石原選手であったため、強化育成選手の予選対象選手として予選を実施することとした。また、高橋大樹、笹田直希、田村道英、中村俊彦の4選手は、強化育成選手として強化委員会メンバーより推挙があったため、今後強化委員会で個々に面談予定。

<その他>

パートナーシップ規定、全日本選手権の強化委員会推薦枠、アスリート委員会についても話し合い、本日の理事会の議題へ上げさせてもらった。

(6) 石垣市長訪問について

議長より報告説明。

沖縄県内の射撃場建設については、過去計画が頓挫してしまった経緯があるが、井出理事の働き掛けにより石垣島へ射撃場を建設する話が持ち上がっている。石垣市長を筆頭に射撃建設推進委員会が立ち上がり、市長自ら銃砲所持許可を取得した。先日、石垣市会議員を数名連れて伊勢原射撃場を視察、当協会が射撃場建設に協力していくことを申し合せた。建設場所はほぼ内定している模様。

(7) その他：神奈川県立伊勢原射撃場の指定管理について

議長より報告説明。

伊勢原射撃場の指定管理が来年度再申請を予定している。自身の年齢等を考慮して手を引きたいところだが、スポーツ庁の指定強化拠点、ISSF アカデミー認定など、協会にとって大きなメリットがある。

他競技で前例があるようだが、次回は神奈川県射撃協会と日本クレー射撃協会の連名で神奈川県行政へ申請したい。

議長が議場に諮り了承。

10. 審議事項

(1) JCSA・MISSION 案のアンケート集計について

事務局長より説明。

理事・監事を対象に表記アンケートを実施し、各都道府県協会関係者へ認識共有を図るためにはどうしたらいいか、外部理事・女性理事の選任方法についてのアイデアについても回答いただいた。

JCSA・MISSION 案については、今後のガイドライン作成と並行して作業にあたる予定であり、顧問弁護士と打ち合わせを始めたところである。ガイドラインの作成は年度内に原案を理事会へ示したい。

また、外部理事・女性理事についてはガバナンスコードにも影響することがあり、定款上、理事定数が 14 名以上 20 名以内に制限されており、今後外部理事を導入し易くするために、先を見据えて定数を議論する必要もある。

会長より、理事会で議論するよりも定款細則の変更案、ロック理事・学経理事の枠定数を決めるプロジェクトチームを少人数で作り、原案をまとめて理事会へ提出する方法が提案されている。

特に、次期役員改選を来年の 6 月に控えているため、ロック理事の定数を変えるのであれば、その前に定款細則を改正しなければならない。既に中国ロック丸石理事より、「ロック理事はいつまでに選出すれば良いのか?」という問合せを本部事務局にいただいている。

会長より補足説明。

以前専務理事を務めていた清水光一氏が東京五輪の関係で理事から外れたが、来年 3 月で東京五輪組織委員会が解散するため、同氏を理事へ戻したい。理事

就任は総会決議が必要であるため、WEB 総会を開き理事就任の承認をもらいたい。

現在、清水氏は組織委員会からの時給で働いているが、組織委員会で得た経験や人脈をフル活用し、今後の協会運営に役立てていただきたいため、有給役員として置き、1~3ヶ月は協会からの報酬を充てたい。1ヶ月 15万円程度を見込んでいる。4月以降は伊勢原射撃場の業務にも携わってもらい、伊勢原からも報酬を与えるつもりである。まずはこの点について理事会の承認をいただきたい。

議長が議場に諮りこれを承認。

続けて議長より説明。

事務局長の説明通り、JCSA・MISSION 案に関するプロジェクト・特別委員会を作りたい。JCSA・MISSION 案の作成は少し難しい。

クレー射撃は会員全員が競技志向かというと違う。「遊び」の延長で入会する会員も居るし、生涯スポーツという観点も併せ持つ。

地方協会の定款にも本部と同様、クレー射撃の普及・振興と競技力向上が目的と明記されているため、射撃教室やビギナー＆マスター大会実施を地方協会も行うべきところ、その認識が地方協会関係者に無い。

先日顧問弁護士と打合せした際、地方協会は確かに本部の加盟団体ではあるが「下部組織に近い加盟団体」と弁護士は言っている。だから、本部が決定したガバナンスやコンプライアンスは遵守しなければならず、これを今後しっかりと定義しなければならない。

だから、競技団体の使命は、選手と役員と職員が人間性の向上を求める、社会に対する貢献性と、幸福の希求。この3原則をよく理解した関係者で特別委員会を構成し、JCSA・MISSION 案を議論する必要がある。これは、将来の協会像における根幹部分であるから、私は監事代表として江野澤氏、副会長代表として不老氏、競技・審査委員長のうち1名、総務委員長菊本氏、それと会長である私が構成したい。あまり人数が多いと意見をまとめるのが難しいので少人数が理想と考えている。

このプロジェクトチームで理事会へ提出する JCSA・MISSION 案の作成と、ブロック理事・学級理事の定数についても原案をまとめたい。

議長が議場に諮り、会長提案が承認された。

(2) アスリート委員会について

事務局長より説明。

報告事項で説明した通り、アスリート委員会の設置が強化委員会より上程されている。当初は、アスリート委員会委員長へ理事枠を与えるべきか検討していたが、取り敢えずゼロベースから作ることもあり、ガバナンスコードにおける要求項目にも挙げられている。アスリート委員会の役割は、協会運営に選手の意見を反映することであるため、理事会への提言書を作成・提出いただくことしたい。

強化委員会では、委員長へ廣岡富美恵、委員へ鈴木ゆり、石原奈央子、折原研二の4名が推挙されており、意見集約し易いよう4人程度の少人数でまずはアスリート委員会をスタートさせたい。

議長が議場に諮り、アスリート委員会の設置とメンバーが承認された。

(3) パートナーシップ規定について

議長より説明。

強化委員会では、パリ五輪に向けた戦略として2~3名程度の選手をクレー射撃競技が盛んなヨーロッパへ送り、その環境で選手を育てたいが原資が必要。規定原案は強化委員会が作成したが、ヨーロッパへ選手を送り強化活動を行う資金が補助金だけでは不足するため、不足分を企業から集めて充てたい。担当役員としては菊本総務委員長と元専務理事の及川悦郎氏を考えている。規定詳細は配布資料の通り、ゴールド年間240万円、シルバ一年間120万円、ブロンズ年間60万円に区分、目標としては2,000万円集めたい。

議長が議場に諮り、パートナーシップ規定が承認された。

(4) ガバナンスコードについて。

事務局長より配布資料に添って説明。

ガバナンスコードの進捗状況を年に1回自己公表を行い、スポーツ庁、JOC、JSPOへ提出して、且つ、協会ホームページで閲覧に供さなければならない。2021年2月下旬に既に自己公表を行っているが、その更新版を本日の理事会承認を経て10月末までに行う予定である。

- 01：基本計画は、現在パリ五輪に向けた強化戦略プランを強化委員会が作成中であるため、作成後に同プランを反映させて基本計画に盛り込みたい。
- 03：単年度の予算管理に傾注することを追記。
- 04：外部理事の目標割合25%、女性理事40%であるが、次期役員改選で外部理事25%は達成見込み、女性理事も10%⇒20%へ改善を見込んでいる。
- 06：アスリート委員会を設置し、理事会の諮問機関としてスタートさせる予定であることは先ほど理事会の承認を経た。
- 07：理事数枠（ブロック理事・学経理事）内訳を検討予定。先ほど理事会の承認を経た。
- 09：理事選任内規を設け、5期10年を超えないこととする。
- 10：役員選考委員会のメンバー構成について検討する必要がある。
- 11：コンプライアンス規定を既に整備済み。
- 12：社員総会運営規則等については、年度内にまとめたい。また、情報公開規定は既に整備済みだが、危機管理マニュアルを年度内にまとめたい。
- 14：就業規則は、前面見直しを図るために社会保険労務士と打合せをしながら詰めていきたい。
- 16：パートナーシップ規定を先ほど理事会で承認いただいた。
- 20：コンプライアンス規定を整備済み。
- 21~24：コンプライアンス教育を2022年度より実施。

33：既に通報窓口を設置しているが、弁護士と契約し運用できるよう現在調整中である。

38：年度内に現行倫理規定を改正予定。

説明以外の条項番号は、2月掲載内容と同じである。原案を本理事会で承認いただければ、今月末の自己公表について原案通り対応したい。

質疑応答後、議長が議場に諮り原案が承認された。

また、議長より、橋本聖子氏の顧問就任について提案し併せて承認された。

今後、橋本氏へ顧問就任について打診することを申し合せた。

(5) 予算進捗・事務局の在り方について

議長より説明。

9月、事務局に予算進捗状況を出すよう指示したところおよそ800万円の赤字見込みがあり、事務局長の桁間違い入力ミスも含まれていたため始末書を提出させた。

予算進捗については会長よりも監事が適宜と考え、予算は競技・審査・強化・総務に分かれているため、監事とよく打合せをして2ヶ月に1回の理事会時に、事務局は予算進捗を理事会へ報告するよう指示した。

議長が議場に諮りこれを了承。

(6) 2022年度本部公式大会について

渡辺競技委員長より競技委員会案を配付資料に添って説明。

◆4月23日～24日：ブロック本部公式大会①関東
ニッコー栃木総合射撃場

◆5月14日～15日：ブロック本部公式大会②東海・北信越・近畿
愛知県総合射撃場

◆6月18日～19日：本部公式大会
成田射撃場

◆7月17日～18日：ブロック本部公式大会③中国・四国・九州
岡山県クレー射撃場又は福岡県立総合射撃場

◆8月20日～21日：JOC ジュニアオリンピックカップ大会
神奈川県立伊勢原射撃場

◆9月3～4日：ブロック本部公式大会④北海道・東北
宮城県クレー射撃場

◆9月24日～25日：全国クレー射撃フェスティバル大会
ニッコー栃木総合射撃場

◆10月20日：全日本女子選手権大会
福岡県立総合射撃場

◆10月23日～24日：全日本選手権大会
福岡県立総合射撃場

◆11月4日：第5回ビギナーズ・マッチ大会

神奈川県立伊勢原射撃場

◆11月6日：第6回グランド・マスター大会

神奈川県立伊勢原射撃場

不老副会長より、ブロック本部③は岡山県でお願いしたいと意見があり、丸石副会長が了承。ブロック本部③は岡山県を選択。

渡辺競技委員長より追加説明。

フェスティバル大会はトラップ 76m±1m、スキート 68m±1m、100 個撃ちで実施。参加選手数を制限して 2 日間競技で行いたいという意見もあり、団体戦として、スキートについては国体同様ブロック予選実施により 32 チーム参加、トラップは 47 チーム全県参加。各種目選手 2 名、うち女性選手 1 名を含めた構成とする。

来年度の地方公式大会については、本年度同様、2 つのルールから地方協会が選択する方式を基本として、ISSF ルール、ビギナー・マスタールールのどちらかを選ぶ。また、地方協会は、年 1~2 回はビギナー・マスタールールによる地方公式大会を実施いただく。

課題としては、今後の国体を ISSF ルールへ戻すため、地方公式大会も ISSF ルールで行いたいという希望が多い。現行、本部実施している ISSF 基準の運営、いわゆる 125 個撃ち十ファイナルの 2 日間競技で実施できるところは是非実施してもらいたい。

実施が難しい地方協会は、100 個撃ち十ファイナル、75 個撃ち十ファイナル、またはファイナルを実施しない 100 個撃ちという ISSF ルールの地方公式版を設定した。但し、ファイナルはランキング対象外とし、審判員は、必ず国内審判員資格所持者が行う。（* 選手兼任でも資格を有していれば審判員は可能）その他、全日本ランキングを構築するが、得点・基準値など模索しながらの試行のため、来年度は移行期間として従来の段級位、クラス分けを並行して運用する。（* 来年度、全日本ランキングは参考値として精度を上げていく）

議長より説明。

問題なのはフェスティバルの実施あたりどの程度の予算が必要かということだ。来年度予算編成時に競技・審査とよく打合せる必要があるが、恐らく実施予算 500 万円程度が精一杯ではないか。

柏木審査委員長より説明。

現在原案はトラップ 47 チーム全県出場。スキート予選勝ち抜き 32 チームとしているが、予算オーバーであればトラップも予選勝ち抜きにせざるを得ない。詳細は今後競技委員長と検討したい。

議長が議場に諮り、2022 年度本部公式大会の日程・会場、競技ルール等について原案が承認された。

(7) 国際競技会入賞者に対する褒賞金規定の改正について

議長より説明。

本来褒賞金規定は競技委員会の範疇であるが、強化委員会も原案作成に協力した経緯である。協会に原資が無いから会長 20 万円、副会長 15 万円、常務理事 10 万円、理事 5 万円を拠出いただく原案としている。

トラップ・スキートはファイナル進出をボーダーラインとして第 6 位まで対象、MIX 種目は 3 位決定戦があるため 4 位までを対象とした。

本日は採決せず、審議事項 1 で承認された特別委員会において本件も協議願いたい。

議長が議場に諮りこれを了承、特別委員会で原案を基に協議することになった。

(7) その他

◆三重国体代替大会について

柏木専務理事より説明。

今年の三重とこわか国体は 9 月 30 日～10 月 3 日で予定されていたが、8 月の感染拡大により中止、6 年後に延期開催という方針で進んでいたが、6 年延期による費用が 180 億円発生することがわかり、県議会では「中止」が決定された。

中止に伴い代替大会を今年度中、来年の 2 月 28 日までに行えば各競技団体に対して 300 万円の補助を三重県が出すことになり、代替大会を行うかどうか、問合せが三重県協会へ届いている。

陸上競技は先日大会を、東海ブロック 4 県 + 長野県の 5 県で実施、テニス大会もあった。その他 7 団体が大会実施を計画している。

クレー射撃も、2 月 28 日までに 300 万円の補助金を受けて代替大会を実施したいと考えているが、シーズンオフの時期であり選手を集めることが難しい恐れもある。できれば、大会成績の公認をいただき、来年度の全日本選手権大会の QP 付与も認めてもらい、選手の参加意欲を奮起したい。

会場は三重国体に向けて施設整備が完了した三重県上野射撃場、参加選手は三重国体参加予定選手としたい。

質疑応答後、議長が議場に諮り柏木専務理事の提案が承認された。

議長より、以上で報告事項、議案審議の総てが終了したことを告げ、出席各位への慎重審議に対して謝辞があり、閉会を宣した。

なお、次回の理事会は 2021 年 12 月 21 日に行うことを申し合せた。

午後 3 時 50 分 閉会

2021年10月27日

一般社団法人 日本クレー射撃協会

議

長

高橋義博

(会長 高橋 義博 自筆署名)



議事録署名人

江野澤吉克

(監事 江野澤 吉克 自筆署名)



議事録署名人

藤沼弘文

(監事 藤沼 弘文 自筆署名)

